平成二十九年十一月投句　【福岡城址・平尾山荘】

凩やオリオン真うへ月ひがし　勝利

凩は荷馬車の車輪抜けて来し　真理子

子供待つ掃除ついでに冬支度　節子

消防車走る落葉の住宅街　由紀子

鴨の群れ園児の群れに集められ　光子

冬暖か六畳二間の展示室

語ること多きは幸と小春の日

虚空蔵は守り本尊小鳥来る

山の木のいつしか庭に小鳥来て

囚われの身ほとり描き冬ざるゝ

貫きし志あり破れ障子

タクシーを降りて小春の坂の道

美しき声まだ耳に後の月

凩に乾きし魚の鰭の反り

吟行の下見の城址薄紅葉